会長挨拶

この度第 34 回日本小児脾臓・門脈研究会を、2021 年 3 月 6 日土曜日に藤田医科大学小児外科で開催させていただくにあたり、ご挨拶申し上げます。

本研究会の第 1 回は、日本小児脾臓研究会（第 1 回より第 31 回までは日本小児脾臓研究会という名称でした）として昭和 63 年度（1988 年度）私の母校である名古屋市立大学第一外科の由良二郎先生のもと東京で開催されました。この歴史ある研究会をお世話させていただくことになり、ひとしおの感慨とともに身の引き締まる思いです。

新型コロナウイルス感染症がなかなか落ち着かない中、世話人の先生方はじめ皆様のご協力のおかげで、17 題の応募をいただきました。心より感謝いたします。今回、特に主題は設けずに演題を募集いたしましたが、門脈体循環シャントに関する演題を多く頂戴いたしました。門脈血行異常症に対する注目度の高さが推察されます。そこで、教育講演として『ガラクトース血症マススクリーニングの現状』を藤田医科大学小児科 伊藤哲哉 教授にお願いしました。門脈血行異常症の発見の契機となることが多いガラクトース血症について、有益なお話がうかがえるものと思います。また事務局報告として『先天性門脈欠損症・門脈体循環短絡症患者症例登録による疫学研究』につてご説明いただく予定です。

愛知の地で本研究会が開催されるのは、私の恩師である橋本俊先生の第 14 回（2001 年度）名古屋大学の安藤久實先生の第 21 回（2008 年度）以来 12 年ぶりとなります。本来であれば、皆様に名古屋へお越しいただき直接議論を戦わせたいところでありますが、この新型コロナ感染症の状況ではそれもかないません。Zoom による Remote 開催とさせていただきます。昨今、学会、研究会がほぼすべて Web 開催となっているため、専門業者に研究会の支援をお願いすることができませんでした。医局員総出の文字通りの手作りの研究会となってしまい、色々と不都合なことがあるかと存じます。研究会に先立ちあらかじめお詫び申し上げます。

Remote 開催でご不便をおかけいたしますが、皆様にはぜひとも活発な議論をお願いいたします。より多くの有益な情報を皆様と共有できれば幸いに存じます。

第 34 回日本小児脾臓・門脈研究会会長
藤田医科大学医学部 小児外科学講座 教授
鈴木 達也